

1981～1982〈第891回例会〉第38回

3月17日の記録

- 司会 岩塚 陽一 会長 ●斉唱 それでこそロータリー
- ビジター 東京三鷹R.C. 斗光 敏明君 札幌西R.C. 畠山三代喜君
函館R.C. 荻野佐太郎君他4名 函館東R.C. 宮下慶長君他1名
五稜郭R.C. 野本 義秀君他1名
- ゲスト 倭日刊政経情報社 社長 菅野 剛造氏
オーストラリア交換学生 ミス・スーザンプロッサー
函館東R.C.幹事 谷口 重勝氏

●会長報告 岩塚 陽一 会長

- 第251地区ガバナー佐久間三八氏より来る6月6日から9日までの米国テキサス州ダラスにおける国際大会にすこしでも多くの方が出席されるよう呼びかけが来ております。詳細は81年9月号と81年12月号の「ロータリーの友」にのっておりますし、事務局でも判りますので、よろしくお願ひします。
- 交換学生のミス・スーザンプロッサーが表敬訪問にいらしておりますので、東R.C.の谷口幹事よりご紹介願ひします。

※東R.C.谷口幹事より派遣学生・宮本貴子さんと交換学生・ミス・スーザンプロッサーについて紹介があり、ついでミス・スーザンプロッサーより日本語による挨拶がありました。又派遣学生・宮本貴子さんについて養父である東R.C.宮崎安吉氏より、挨拶がございました。

●幹事報告 松橋 博 幹事

- 本日会員候補者として、2名事前発表することになりました。よろしくお願ひいたします。
- 3月12日ローターアクト例会に、ミス・スーザンプロッサーと宮本貴子さんが出席され、交歓しておりました。
- 他クラブの例会変更のお知らせをします。
3月23日(火) 東R.C. 東海飯店 午後6時 ビジター料5,000円
3月25日(木) 函館R.C. 駅前五嶋軒 午後6時 ビジター料5,000円
3月26日(金) 五稜郭R.C. 花びしホテル 午後6時 ビジター料7,000円

●親睦活動委員会 石橋 輝夫 会員

ニコニコBOX投入報告

松岡君(函館R.C.)……いつもメーカーでのお世話になります。
宮崎君(東R.C.)……派遣学生・宮本貴子がお世話になります。
野村 会員……韓国旅行より無事帰りました。

南 会員……ホームクラブ欠席がちのお詫び
西川 会員……

●卓話 「函館発展のための一提言」

(倭日刊政経情報社 社長 菅野 剛造氏)

現在、函館は不況の真只中にあると言われておりますが、今の不況は、先般の函館ドック不振や200海里漁業規制により惹起された不況とは少しばかり様子が違うものと思います。函館ドックは小規模ながらも中型船舶の受注でフル操業を続け、また、漁業もイカ豊漁などに支えられて活況を呈していたにも拘らず、不況色は一向に無くならないばかりか、現在に於ては一層深刻な様相を帯び始めてきた次第です。

その発端となったのが、一口で言えば大型流通資本の函館進出と言えます。本州大手の進出で函館市内の流通業界は大打撃を受けております。因みに、昨1年間の既存大型店の売上合計は468億円に止どまり、前年(518億円)を50億9.4%も下回りました。一方、新規3店の合計は259億6千万円となり、新旧合めて大型店全体としては前の年を210億円40%も上回っているのです。しかし、巷間伝えられるデーターは売上げのマイナスを余儀なくされている既存店の分しか出て来ないのです。様々の私的制約があって、止むを得ずそうなるのですが、このため一般には、函館の流通業界は不振なのだ、函館は不景気なのだという様な印象を与えたのです。つまり、一面的なデーターによる不況心理の発生で、市民に防衛意識が芽生え始め、耐久消費財や住宅といった分野で、買い控えなどの動きが見られる様になったのです。個々の売上げで見ると、確かにマイナス成長をしているのですが、全大型店で見ると、決して消費需要は落ちてはいなかったのに、という訳です。

ところが、やがて、こうした防衛意識は、その対象を耐久消費財や住宅から一般消費物資にまで広げてきたと云えます。耐久消費財や住宅を扱う業界は軒並み不振に喘いでいるうえ、今度は一般消費財を扱う業界も苦悩の色を強めてきたわけです。

こうした状況を踏まえて函館の産業実態を見ますと、53年度事業統計で少し古いのですが、一次産業は31事業所、2次は2,204事業所、3次は1,4585事業所という分布であり、3次産業が全体の約87%を占めているのに対し、2次は13%に過ぎません。しかも3次産業のうち卸小売業が圧倒的に高く、3次の中で61%全産業でも53%を占めているのです。つまり、函館は典型的な消費都市であり、産業基盤が脆弱で生産性が低いから、消費が低迷すれば、直ちに不景気となってハネ返ってくるわけで、函館の産業構造が、この様なものである以上、今の不況は、函館にとって構造不況以外の何ものでもありません。従って、1次、2次産業の振興が急務となってくるのですが、より安定性のある産業を望むとすれば、2次産業、それも製造業の分野での振興が図られなければならないと思うのです。何よりも2次産業の振興は雇用機会の増加と相俟って人口の場合をもたらします。人口は都市成長度合のバロメーターと言えます。

そこで、函館市と道南の人口を見ますと、渡島(1市14町2村)は昨12月まで

51万6千人、うち函館は62%の32万人です。前の年に比べ函館、上磯、七飯、大野で若干増えましたが、人数的には合計で1千名程度ですが、これに対し、他の11町2村は軒並み減少し、ために渡島トータルでは逆に600名ほど減ったのです。一方、桧山は10町全てで前年を下回り、12月末の人口は7万5千名に止どまりました。要するに、道南全体としては、人口は横這い、伸び悩み、頭打ちという状態で推移しているのです。函館の消費が伸びず、不況を脱し得ないのは、雇用拡大を促がす2次産業に乏しく、ために郡部地区の過疎化を招き、最早、周辺地域がヒンターランドとしての機能を有してはいないからであるとも言えるのではないのでしょうか。

函館が消費都市としての機能を果していくためには、郡部地区に於ける人口の増加を図らなければならないし、また、函館が消費都市から脱皮して工業都市になるにしても、今度は、それを裏付ける消費需要という面からも、郡部地区の人口増加が図られなければなりません。いずれにせよ、函館の発展は郡部の発展と軌を一にするものであると思うのです。つまり、函館の発展は郡部の振興無くしては望めないと言えます。道南1市24町2村の綿密な連繋のもとで、企業誘致なりを考えるべきであって、函館だ、七飯だ、上磯だなどという様なナワ張り争いを演じる様な時代ではないことを、全ての市民が認識すべきなのだと思います。

以上、私見に過ぎませんが、2次産業振興が急務と考慮しておられる方々も多いものと思われまますし、そうした意見が活発になることが、企業誘致への第1歩となるものと思われまますので、時間をお借りして申し上げた次第です。

◎ 出席報告

会 員 数	69名	出 席 率	函 館 北 3月10日	100.00 %
出 席	46名		函 館 東 3月 2日	95.40 %
欠 席	23名		函 館 3月 4日	97.58 %
他クラブ出席	22名		函館五稜郭 3月 5日	100.00 %
出席合計	68名		函館亀田 3月 1日	90.70 %
除 外 者	1名			

次回・3月31日
プログラム

「私の仕事を通して」

北R.C. 田中 竜夫 会員

例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 例会場：函館国際ホテル
事務所：函館市大手町5-10 日魯ビル3F TEL (0138) 23-3870



函館北ロータリークラブ 会 報

スタンレー E. マックヤフリー R.I. 会長 テーマ

World Understanding and Peace Through Rotary

「ロータリーを通じて世界理解と平和を」



〔春〕 北R.C. 戸崎 孝二 会員

《第893回例会》 第39号 3月31日(水)

本日のプログラム

「私の仕事を通して」

北R.C. 田中 竜夫 会員

★ 会 長 岩塚陽一

★ 幹 事 松橋 博